



## インストール

---

- [インストールの概要](#) (1 ページ)
- [1GE および 10/25GE スイッチの設定に適用されます。](#) (3 ページ)
- [1GE スイッチの設定に適用](#) (7 ページ)
- [10/25GE スイッチの設定に適用](#) (14 ページ)
- [HX Connect へのログイン](#) (19 ページ)

## インストールの概要



- (注) 以前に HyperFlex クラスタノードが他の HyperFlex クラスタの一部であった場合（または工場出荷前の場合）、クラスタの導入を開始する前にノードのクリーンアップ手順を実行します。詳細については、『[HyperFlex Customer Cleanup Guides for FI and Edge](#)』を参照してください。

Edge 導入のためのインストール ワークフローの概要を示す次の表を参照してください。手順 1～3 は、1 GE と 10/25GE の展開で共通です。ただし、手順 4 は 1GE の展開に適用され、残りの手順 5～6 は 10/25 GE の展開に適用されます。

手順	説明	参考資料	1GE および 10/25GE、1GE、または 10/25GE に適用可能
1	インストール前のチェックリストに記入します。	<p>スイッチの設定に基づいて、以下から選択します。</p> <p>2 ノードエッジの展開:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 10 または 25GE VIC ベースのトポロジ または、</li> <li>• 1 ギガビット イーサネット トポロジ</li> </ul> <p>3 および 4 ノードエッジの展開:</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 10 または 25GE VIC ベースのトポロジ または、</li> <li>• 1 ギガビット イーサネット トポロジ</li> </ul>	1GE および 10/25GE
2	インストールの前提条件を準備します。	<ul style="list-style-type: none"> <li>• ラック設置型 Cisco HyperFlex ノード (3 ページ)</li> <li>• Cisco Integrated Management Controller の構成 (3 ページ)</li> <li>• ファームウェア バージョンの確認 (5 ページ)</li> </ul>	1GE および 10/25GE
3	Cisco HX Data Platform インストーラをダウンロードして導入します。	Cisco HX Data Platform インストーラの導入 (6 ページ)	1GE および 10/25GE
4	HyperFlex Edge クラスタを展開します。	<p>次の手順を実行して Edge クラスタを設定し、インストールが成功したことを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• HyperFlex クラスタの設定 (7 ページ)</li> <li>• Cisco HX Data Platform ソフトウェア インストールの確認 (14 ページ)</li> </ul>	1GE のみ

手順	説明	参考資料	1GE および 10/25GE、1GE、または 10/25GE に適用可能
[6]	HyperFlex Edge クラスタを展開します。	(10/25GE のみ) HyperFlex クラスタの設定 (14 ページ)	10/25GE のみ

## 1GE および 10/25GE スイッチの設定に適用されます。

### ラック設置型 Cisco HyperFlex ノード

Cisco HX220c M5 HyperFlex ノードまたは Cisco HX220c M6 HyperFlex ノードの詳細については、『[Cisco Hardware Install Guides](#)』を参照してください。



**重要** CIMC 構成のために、コンソール ドングルを使用して VGA モニタとキーボードを接続できます。また、サーバの背面で VGA および USB ポートを直接接続することもできます。あるいは、ネットワーク内で DHCP サーバを使用できる場合は、CIMC の Lights-Out 構成を行うこともできます。

## Cisco Integrated Management Controller の構成

CIMC ネットワークを構成する方法として、静的（スタティック）割り当てまたは DHCP 割り当てのいずれかを選択します。

### CIMC の構成：静的割り当て

Cisco Integrated Management Controller (CIMC) を構成するには、CIMC スタンドアロンモードを有効にし、CIMC パスワードと設定を構成し、KVM を使用して手動で静的 IP アドレスを構成する必要があります。それには、モニタとキーボードを備えた各サーバに物理的にアクセスできる必要があります。一度に 1 台ずつサーバを構成する必要があります。

アウトオブバンド用途では専用 CIMC 管理ポートを使用することもできます。ユーザーはアップストリーム スイッチの設定を計画する際は、この 3 番目の 1GE ポートを考慮する必要があります。さらに、CIMC の構成中は、CIMC を専用モードに設定する必要があります。専用 NIC モードにおける CIMC の構成の詳細については、[Cisco UCS C シリーズのドキュメンテーション](#)を参照してください。[NIC プロパティ (NIC properties)] の下で、NIC モードを [専用 (dedicated)] に設定してから構成を保存します。

### 始める前に

- 展開に適用されるこのガイドの「物理的なケーブル接続」の項の説明に従って、すべてのイーサネット ケーブルが接続されていることを確認します。
- サーバに VGA ドングルを接続し、モニタと USB キーボードを接続します。

---

**ステップ 1** サーバの電源を入れ、画面に Cisco ロゴが表示されるまで待ちます。

**ステップ 2** プロンプトが表示されたら、**F8** キーを押して、**Cisco IMC Configuration** ユーティリティを起動します。

**ステップ 3** **[CIMC ユーザの詳細 (CIMC User Details)]** で、**password** と、**[現在の CIMC パスワード (current CIMC password)]** に入力し、**新しい CIMC パスワード** を 2 回入力してから **Enter** キーを押して新しいパスワードを保存します。

**重要** システムには、インストール時に変更する必要があるデフォルトパスワード *Cisco123* が付属しています。新しいユーザ指定のパスワードを指定しない限り、インストールを続行することはできません。

**ステップ 4** **[IP (基本) (IP (Basic))]** で、**[IPv4]** をオンにし、**[DHCP を使う (DHCP Enabled)]** をオフにして、**[CIMC IP]**、**[プレフィックス/サブネット (Prefix/Subnet)]** マスク、**[ゲートウェイ (Gateway)]** に値を入力します

**ステップ 5** **[VLAN (詳細設定) (VLAN (Advanced))]** で、**[VLAN を使う (VLAN enabled)]** をオンにして、次の操作を行います。

- トランク ポートを使用する場合は、適切な **[VLAN ID]** を設定します。
- アクセス ポートを使用する場合は、このフィールドを空白のままにします。

**ステップ 6** 他の設定はデフォルトのままにして、**F10** キーを押して構成を保存し、**ESC** キーを押してユーティリティを終了します。

**ステップ 7** Web ブラウザで、CIMC ページ (<https://CIMC IP アドレス>) に直接移動します。

**ステップ 8** ユーザ名 **admin** と新しい CIMC パスワードを入力し、**[ログイン (Log In)]** をクリックします。

**ステップ 9** **[サーバ (Server)]** > **[電源ポリシー (Power Policies)]** に移動して、目的の動作と一致する電源ポリシーを手動で設定します。

サーバはデフォルトで、電力復元ポリシーを工場出荷時の設定 **[電源オフ (Power Off)]** に設定します。

---

### 次のタスク

仮想 KVM コンソールを使用することも、物理 KVM を引き続き使用することもできます。SD カードには工場出荷時に ESXi がプリインストールされているので、インストール時に自動的に起動します。

## CIMC の構成 : DHCP 割り当て

Cisco Integrated Management Controller (CIMC) を構成するには、CIMC スタンドアロンモードを有効にし、CIMC パスワードと設定を構成し、DHCP から取得した動的 IP アドレスを構成する必要があります。この場合、ネットワークの設定作業が増えますが、HyperFlex Edge ノードの Lights-Out セットアップを有効にすることで構成が容易になります。すべてのサーバが同時に自動的にアドレスをリースするため、導入時間が短縮されます。

### 始める前に

- 展開に適用されるこのガイドの「物理的なケーブル接続」の項の説明に従って、すべてのイーサネット ケーブルが接続されていることを確認します。
- DHCP サーバが有効なスコープで構成されて稼働していることを確認します。
- DHCP サーバが管理 VLAN で直接リッスンしているか、スイッチ上に IP ヘルパーが構成されていることを確認します。
- インバンド CIMC とアウトオブバンド CIMC のどちらを使用するかを決定します。
  - インバンド CIMC を使用する場合、すべての HyperFlex Edge スイッチ ポートに対応するネイティブ VLAN が正しい DHCP VLAN とマッチするように構成します。CIMC が自動的にアドレスをリースできるようにするには、これが唯一の方法です。
  - アウトオブバンド CIMC を使用する場合、DHCP VLAN 上にアクセスモード専用のスイッチ ポートを構成します。

---

**ステップ 1** 電源ケーブルを接続します。

**ステップ 2** DHCP ログまたはリース テーブルにアクセスして、取得した CIMC アドレスを確認します。

**ステップ 3** C220-**<S/N>** のホスト名を検索して HyperFlex サーバを見つけ、HX Data Platform Installer に入力する必要があるアドレスをメモします。

---

### 次のタスク

DHCP を使用する場合、HX Data Platform のインストールを開始する前に手動でユーザ定義 CIMC パスワードを設定する必要があります。Web UI または CLI セッションのいずれかを使用して、新しいパスワードを設定します。デフォルトのパスワード **password** を変更する必要があります。そうしない場合、インストールが失敗します。

## ファームウェア バージョンの確認

現在の BIOS、CIMC、SAS HBA、およびドライブのファームウェア バージョンを表示して、それらのバージョンが、リリース ノートのデータと一致していることを確認します。

- 
- ステップ1 お使いのブラウザで、<https://<CIMC IP>> に移動することにより、CIMC Web UI にログインします。
- ステップ2 ナビゲーション ウィンドウで [サーバ (Server)] をクリックします。
- ステップ3 [サーバ (Server)] ページで [概要 (Summary)] をクリックします。
- ステップ4 [Cisco Integrated Management Controller (CIMC) 情報 (Cisco Integrated Management Controller (CIMC) Information)] セクション ([サーバの概要 (Server Summary)] ページ) で、[BIOS バージョン (BIOS Version)] と [CIMC ファームウェア バージョン (CIMC Firmware Version)] を検索してメモします。
- ステップ5 CIMC で、[インベントリ (Inventory)] > [PCIe アダプタ (PCIe Adapters)] の順に移動し、[SAS HBA のバージョン (SAS HBA Version)] を見つけて値をメモします。
- ステップ6 CIMC では、使用しているサーバーのタイプに応じて [ストレージ (Storage)] に移動し、以下のうちのいずれかに移動してください。
- M4 の場合、[Cisco 12G モジュラー SAS (Cisco 12G Modular SAS)] > [物理ドライブ情報 (Physical Drive Info)] に移動し、ドライブ タイプ、製造業者、およびファームウェア バージョンをメモしてください。
  - M5 および M6 の場合、[Cisco 12G モジュラー SAS HBA (Cisco 12G Modular SAS HBA)] > [物理ドライブ情報 (Physical Drive Info)] に移動し、ドライブ タイプ、製造業者、およびファームウェア バージョンをメモしてください。
- ステップ7 現在の BIOS、CIMC、SAS HBA、およびドライブのファームウェア バージョンと、Cisco HyperFlex Edge とファームウェアの互換性マトリックスに記載されているバージョンを比較します。
- ステップ8 最小バージョンを満たしていない場合、互換性マトリックスの Host Update Utility (HUU) ダウンロードリンクを基に、システムで実行中のファームウェアのバージョン (Cisco 仮想インターフェイスカード (VIC)、PCI アダプタ、RAID コントローラ、ドライブ (HDD/SSD) ファームウェアを含む) をアップグレードします。Cisco HUU ユーザ ガイドの最新および以前のリリースは、<http://www.cisco.com/c/en/us/support/servers-unified-computing/ucs-c-series-rack-servers/products-user-guide-list.html> で確認できます。
- 

## Cisco HX Data Platform インストーラの導入

HX データプラットフォーム インストーラは、ESXi サーバと、VMware ワークステーション、VMware Fusion、または仮想ボックスに展開できます。HyperFlex ソフトウェアは、オープン仮想アプライアンス (OVA) ファイル形式の導入可能な仮想マシンとして配布されます。VMware vSphere (シック) クライアントを使用して HX Data Platform インストーラを展開するには、次の手順を使用します。

- 
- ステップ1 HX Data Platform インストーラ OVA を [Cisco.com](http://www.cisco.com) からダウンロードし、このパッケージをローカルに保存します。
- ダウンロードしたバージョンが、展開に推奨されるバージョンと一致することを確認します。
- ステップ2 vSphere クライアントを使用して vCenter にログインします。
- ステップ3 [ファイル (File)] > [OVF テンプレートの導入 (Deploy OVF Template)] の順に選択します。

- ステップ 4 [OVF テンプレートの導入 (Deploy OVF Template)] ウィザードの [送信元 (Source)] ページで、送信元の場所を指定し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 5 [OVF テンプレートの詳細 (OVF Template Details)] ページで、情報を確認してから [次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 6 (任意) [名前と場所 (Name and Location)] ページで、仮想アプライアンスの名前と場所を編集し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 7 [ホスト/クラスタ (Host/Cluster)] ページで、導入先のホストまたはクラスタを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 8 [リソース プール (Resource Pool)] ページで、OVF テンプレートの実行場所となるリソース プールを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 9 [ストレージ (Storage)] ページで、導入後の OVF テンプレートを保管するデータベースを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 10 [ディスク フォーマット (Disk Format)] ページで、仮想マシンの仮想ディスクを保管するディスク フォーマットを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 11 [ネットワーク マッピング (Network Mapping)] ページで、OVF テンプレートで指定されているそれぞれのネットワークについて、[宛先ネットワーク (Destination Network)] 列を右クリックしてインフラストラクチャ内のネットワークを選択し、[次へ (Next)] をクリックします。
- ステップ 12 インストーラ VM の OVF プロパティとして、ホスト名、デフォルト ゲートウェイ、DNS サーバ、IP アドレス、およびサブネット マスクを指定します。
- あるいは、DHCP で割り当てられるアドレスを使用するには、すべての OVF プロパティを空白のままにします。
- ステップ 13 [準備完了 (Ready to Complete)] ページで、[展開後に電源をオン (Power On After Deployment)] を選択し、[終了 (Finish)] をクリックします。

## 1GE スイッチの設定に適用

### HyperFlex クラスタの設定

- ステップ 1 Web ブラウザで、インストーラ VM の IP アドレスを入力し、[承認 (Accept)] または [続行 (Continue)] をクリックして SSL 証明書エラーをバイパスします。
- ステップ 2 ログイン画面の右下隅にある [ビルド ID (Build ID)] で HyperFlex インストーラのビルド ID を確認します。
- ステップ 3 ユーザー名 **root** とパスワード **Cisco123** を使用して Cisco HX Data Platform にログインします。
- 重要** システムに同梱されているデフォルトのパスワード *Cisco123* は、インストール時に変更する必要があります。HyperFlex オンプレミス インストーラでは、導入の一部としてルート パスワードを変更する必要があります。新しいパスワードを指定しない限り、インストールを続行できません。設定の手順のこの時点で、新しいパスワードを使用します。

- ステップ 4** エンドユーザーライセンス契約書を読み、[利用規約に同意する (I accept terms and conditions)] をオンにしてから、[ログイン (Login)] をクリックします。
- ステップ 5** [Workflow (ワークフロー)] ページで、[HyperFlex によるクラスタ作成 (Cluster Creation with HyperFlex Edge)] をクリックします
- ステップ 6** クラスタを作成するには、必要な構成データが格納された *JSON* コンフィギュレーション ファイル をインポートできます。JSON ファイルをインポートする場合は、次の2つのステップを行います。インポートしない場合は、必須フィールドに手動でデータを入力できます。
- (注) 初回インストールの場合は、シスコの担当者に連絡して工場出荷時のプレインストール JSON ファイルを入手してください。
1. [ファイルの選択 (Select a file)] をクリックし、該当する *JSON* ファイルを選択して構成をロードします。[構成を使用 (Use Configuration)] を選択します。
  2. インポートした Cisco UCS Manager の値が異なる場合は、[Overwrite Imported Values] ダイアログボックスが表示されます。[検出された値を使用 (Use Discovered Values)] を選択します。
- ステップ 7** [クレデンシャル (Credentials)] ページで、次のフィールドに値を入力してから、[続行 (Continue)] をクリックします。

名前	説明
<b>Cisco IMC クレデンシャル</b>	
Cisco IMC ユーザー名	Cisco IMC ユーザー名。ユーザー名のデフォルトは <b>admin</b> です。
パスワード	CIMC のパスワード。デフォルトのパスワードは <b>password</b> です。
<b>vCenter クレデンシャル (vCenter Credentials)</b>	
HyperFlex クラスタ サーバの設定	vCenter サーバの FQDN または IP アドレス。vCenter のルート レベル管理者権限があるアカウントを使用する必要があります。
ユーザ名	管理者ユーザ名。
[管理パスワード (Admin Password)]	管理者パスワード。
<b>ハイパーバイザのクレデンシャル</b>	
管理者ユーザ名	管理者ユーザ名。デフォルトのユーザ名は <b>root</b> です。
ハイパーバイザ パスワード	デフォルトのパスワードは Cisco123 です。  <b>重要</b> システムに同梱されているデフォルトのパスワード <i>Cisco123</i> は、インストール時に変更する必要があります。新しいユーザがパスワードを指定していない限り、インストールを続行できません。



次のスクリーンショットを参照して、このページのフィールドに入力してください。

**ステップ 8** [IP Addresses] ページで、サーバごとに割り当てられたアドレスを入力します。

名前	説明
Cisco IMC	Cisco IMC の IP アドレス
ハイパーバイザ	ハイパーバイザの管理 IP
ストレージ コントローラ	ストレージ コントローラの管理 IP
クラスタの IP アドレス	クラスタ管理 IP アドレス
サブネット マスク	クラスタ管理のサブネットマスク
ゲートウェイ	クラスタ管理 IP のゲートウェイ IP アドレス

次のスクリーンショットを参照して、このページのフィールドに入力してください。

**ステップ 9** [クラスタ構成 (Cluster Configuration)] ページで、次のフィールドに値を入力してから、[続行 (Continue)] をクリックします。

(注) プリインストール ワークシートを使用して、すべてのフィールドに値を入力します。

名前	説明
<b>Cisco HX クラスタ</b>	
クラスタ名	HyperFlex ストレージクラスタの名前 (ユーザが指定した名前)。
レプリケーション ファクタ	3 ノードおよび 4 ノード エッジクラスタのレプリケーションファクタ 3 のサポートは、HXDP リリース 4.5 で導入されました。 2 ノードエッジクラスタのデフォルトのレプリケーションファクタは <b>2</b> です。
<b>コントローラ VM</b>	
管理者パスワードの作成	コントローラ VM のデフォルトパスワードはありません。ユーザーはこのフィールドを設定する必要があります
管理者パスワードの確認	管理者パスワードを再入力して確認します。
<b>vCenter の設定</b>	

名前	説明
vCenter データセンター名	HyperFlex ホストが追加された vCenter データセンターの名前。
vCenter Cluster Name	HyperFlex ホストが追加された vCenter クラスタの名前。
<b>システムサービス</b>	
[DNS サーバ (DNS Server(s)) ]	各 DNS サーバの IP アドレスのカンマ区切りリスト。
NTP サーバ	各 NTP サーバの IP アドレスのカンマ区切りリスト。 <b>重要</b> 信頼性の高い NTP サーバが必要です。
[タイムゾーン (Time Zone) ]	コントローラ VM のローカル タイムゾーン。
<b>コネクテッド サービス</b>	
[Enable Connected Services] (推奨)	オンにして、接続サービスを有効にします。  (注) 接続サービスを有効にして Cisco TAC にメールアラートを送信できるようにすることを強く推奨します。
サービス チケット通知の送信先 : 例 : <i>admin@cisco.com</i>	サービス要求通知を受信する電子メールアドレス。
<b>詳細ネットワーク</b>	
管理 VLAN タグ データ VLAN タグ	トランク ポートを使用する場合は、適切な VLAN タグを入力します。トランクモードを使用する場合は、VLAN タグが異なる必要があります。  アクセス ポートを使用している場合は、両方の VLAN タグに <b>0</b> を入力します。  (注) トランク ポートを使用している場合は、 <b>0</b> を入力しないでください。
管理 vSwitch データ vSwitch	自動入力された vSwitch 名を変更しないでください。
<b>Advanced Configuration</b>	

名前	説明
データネットワーク上のジャンボフレームを有効化	このチェックボックスをオフにして、HyperFlex Edge 展開で標準サイズの packets が使用されるようにする必要があります。ネットワーク構成によっては、必要に応じて 10/25GE 展開のジャンボフレームを有効にすることができます。導入を容易にするため、このオプションをオフにすることをお勧めします。
ディスクパーティションのクリーンアップ	既存のすべてのデータとパーティションを HX ストレージクラスタから削除する場合は、このチェックボックスをオンにします。たとえば、クラスタにこのソフトウェアをインストールするのは初めてではない場合、このチェックボックスをオンにします。
[VDI のみの展開用に最適化 (Optimize for VDi only deployment) ]	VDI 展開を最適化する場合は、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、HyperFlex は仮想サーバインフラストラクチャ (VSI) 用にパフォーマンスが最適化されています。VDI 展開の場合にパフォーマンス パラメータを調整するには、このボックスをオンにします。このオプションは、オールフラッシュ HX モデルには影響しません。ハイブリッド HX クラスタでのみ有効にする必要があります。VDI と VSI が混在するワークロードを実行している場合は、このオプションを選択しないでください。
vCenter Single-Sign-On Server	このフィールドには、Cisco TAC から指示があった場合にのみ値を入力してください。

次のスクリーンショットを参照して、このページのフィールドに入力してください。



ステップ 10 導入が完了すると、[導入の概要 (Summary Deployment)] ページに導入の詳細が要約されて表示されず。

#### 次のタスク

HX Data Platform プラグインのインストールを確認します。「[Cisco HX Data Platform ソフトウェア インストールの確認 \(14 ページ\)](#)」を参照してください。

## Cisco HX Data Platform ソフトウェア インストールの確認

ステップ 1 vSphere を起動し、管理者として vCenter Server にログインします。

ステップ 2 vCenter Inventory Lists で、Cisco HX Data Platform が表示されることを確認します。

Cisco HX Data Platform のエントリが表示されていない場合は、vCenter からログアウトしてブラウザを閉じ、再度ログインします。ほとんどの場合はこの操作で問題が解決します。

vCenter からログアウトしても問題が解決されない場合は、vCenter Web クライアントを再起動する必要があります。VCSA に SSH で接続し、`service vsphere-client restart` を実行します。Windows 対応の vCenter の場合、MMC のサービス ページで VMware vSphere Web クライアントを再起動します。

ステップ 3 新しいクラスタがオンライン状態になっていて、登録済みであることを確認してください。

## 10/25GE スイッチの設定に適用

### (10/25GE のみ) HyperFlex クラスタの設定

ステップ 1 Web ブラウザで、インストーラ VM の IP アドレスを入力し、[承認 (Accept)] または [続行 (Continue)] をクリックして SSL 証明書エラーをバイパスします。

ステップ 2 ログイン画面の右下隅にある [ビルド ID (Build ID)] で HyperFlex インストーラのビルド ID を確認します。

ステップ 3 ユーザー名 **root** とパスワード **Cisco123** を使用して Cisco HX Data Platform にログインします。

**重要** システムは、デフォルトのパスワード `[Cisco123]` で出荷されますので、インストール中にこれを変更する必要があります。HyperFlex オンプレミス インストーラでは、導入の一部としてルート パスワードを変更する必要があります。新しいパスワードを指定しない限り、インストールを続行できません。設定の手順のこの時点で、新しいパスワードを使用します。

ステップ 4 エンド ユーザ ライセンス契約書を読み、[利用規約に同意する (I accept terms and conditions)] をオンにしてから、[ログイン (Login)] をクリックします。

ステップ5 [Workflow (ワークフロー)] ページで、[HyperFlex によるクラスタ作成 (Cluster Creation with HyperFlex Edge)] をクリックします

ステップ6 [クレデンシャル (Credentials)] ページで、次のフィールドに値を入力してから、[続行 (Continue)] をクリックします。

名前	説明
<b>vCenter クレデンシャル</b>	
vCenter Server	vCenter サーバの FQDN または IP アドレス。vCenter のルートレベル管理者権限があるアカウントを使用する必要があります。
ユーザ名	管理者ユーザ名。
[管理パスワード (Admin Password)]	管理者パスワード。
<b>[CIMC クレデンシャル (CIMC Credentials)]</b>	
[CIMC ユーザ名 (CIMC User Name)]	CIMC のユーザ名。ユーザー名のデフォルトは <b>admin</b> です。
パスワード	CIMC のパスワード。デフォルトのパスワードは <b>password</b> です。
<b>ハイパーバイザのクレデンシャル</b>	
管理者ユーザ名	管理者ユーザ名。デフォルトのユーザ名は <b>root</b> です。
[管理パスワード (Admin Password)]	デフォルトのパスワードは <b>Cisco123</b> です。 <b>重要</b> システムに同梱されているデフォルトのパスワード <b>Cisco123</b> は、インストール時に変更する必要があります。新しいユーザがパスワードを指定していない限り、インストールを続行できません。

ステップ7 [IP アドレス (IP Addresses)] ページで、サーバごとに割り当てられたアドレスを入力します。

名前	説明
Cisco IMC	Cisco IMC の IP アドレス
ハイパーバイザ	ハイパーバイザの管理 IP
ストレージコントローラ	ストレージコントローラの管理 IP
クラスタの IP アドレス	クラスタ管理 IP アドレス

名前	説明
サブネットマスク	クラスタ管理のサブネットマスク
ゲートウェイ	クラスタ管理 IP のゲートウェイ IP アドレス

**ステップ 8** [クラスタ構成 (Cluster Configuration) ] ページで、次のフィールドに値を入力してから、[続行 (Continue) ] をクリックします。

(注) プリインストール ワークシートを使用して、すべてのフィールドに値を入力します。

名前	説明
<b>Cisco HX クラスタ</b>	
クラスタ名	HyperFlex ストレージクラスタの名前 (ユーザが指定した名前)。
レプリケーションファクタ	3 ノードおよび 4 ノード エッジクラスタのレプリケーションファクタ 3 のサポートは、HXDP リリース 4.5 で導入されました。  2 ノード エッジクラスタのデフォルトのレプリケーションファクタは <b>2</b> です。
<b>コントローラ VM</b>	
管理者パスワードの作成	デフォルトのパスワードは Cisco123 です。  <b>重要</b> システムに同梱されているデフォルトのパスワード <i>Cisco123</i> は、インストール時に変更する必要があります。新しいユーザがパスワードを指定していない限り、インストールを続行できません。
管理者パスワードの確認	管理者パスワードを再入力して確認します。
<b>vCenter の設定</b>	
vCenter データセンター名	HyperFlex ホストが追加された vCenter データセンターの名前。
vCenter Cluster Name	HyperFlex ホストが追加された vCenter クラスタの名前。
<b>システムサービス</b>	
[DNS サーバ (DNS Server(s)) ]	各 DNS サーバの IP アドレスのカンマ区切りリスト。



名前	説明
NTP サーバ	各 NTP サーバの IP アドレスのカンマ区切りリスト。 <b>重要</b> 信頼性の高い NTP サーバが必要です。
[タイムゾーン (Time Zone) ]	コントローラ VM のローカル タイムゾーン。
<b>自動サポート</b>	
自動サポートを有効にします (推奨)。	自動サポートを有効にするには、このチェックボックスをオンにします。  (注) 自動サポートを有効にして、メールアラートを Cisco TAC に送信できるようにすることを強くお勧めします。
サービスチケット通知をに送信します (例: name@company.com)。	サービス リクエスト通知を受信するメールアドレス。

**ステップ 9** [クラスタ構成の詳細設定 (Advanced Cluster Configuration) ] ページで、次のフィールドに値を入力してから、[開始 (Start) ] をクリックします。

名前	説明
<b>詳細ネットワーク</b>	
アップリンク スイッチの速度	<b>10/25GE</b> のラジオ ボタンをオンにします。[MAC アドレス プレフィックス (MAC Address Prefix)] フィールドが表示されます。MAC アドレス プレフィックスを設定します。  (注) MAC アドレスプレフィックスは、Cisco VIC の仮想インターフェイスに一意の MAC アドレスを割り当てるために使用されます。既存のネットワーク機器と重複しないように、一意の範囲を選択してください。
管理 VLAN タグ データ VLAN タグ	トランク ポートを使用する場合は、適切な VLAN タグを入力します。トランクモードを使用する場合は、VLAN タグが異なる必要があります。  アクセス ポートを使用している場合は、両方の VLAN タグに <b>0</b> を入力します。  (注) トランク ポートを使用している場合は、 <b>0</b> を入力しないでください。

名前	説明
管理 vSwitch データ vSwitch	自動入力された vSwitch 名を変更しないでください。
<b>詳細設定</b>	
データネットワーク上のジャンボフレームを有効化	10/25G 展開のジャンボフレームを有効にするには、チェックを付けます。
ディスクパーティションのクリーンアップ	既存のすべてのデータとパーティションを HX ストレージクラスタから削除する場合は、このチェックボックスをオンにします。たとえば、クラスタにこのソフトウェアをインストールするのは初めてではない場合、このチェックボックスをオンにします。
[VDI のみの展開用に最適化 (Optimize for VDi only deployment) ]	VDI 展開を最適化する場合は、このチェックボックスをオンにします。デフォルトでは、HyperFlex は仮想サーバインフラストラクチャ (VSI) 用にパフォーマンスが最適化されています。VDI 展開の場合にパフォーマンスパラメータを調整するには、このボックスをオンにします。このオプションは、オールフラッシュ HX モデルには影響しません。ハイブリッド HX クラスタでのみ有効にする必要があります。VDI と VSI が混在するワークロードを実行している場合は、このオプションを選択しないでください。
vCenter Single-Sign-On Server	このフィールドには、Cisco TAC から指示があった場合にのみ値を入力してください。

[進捗状況 (Progress) ] ページで、すべてのクラスタ構成タスクの進捗状況を確認します。導入が完了するまでには 20 ～ 45 分かかります。

**ステップ 10** 導入が完了すると、[導入の概要 (Summary Deployment) ] ページに導入の詳細が要約されて表示されません。

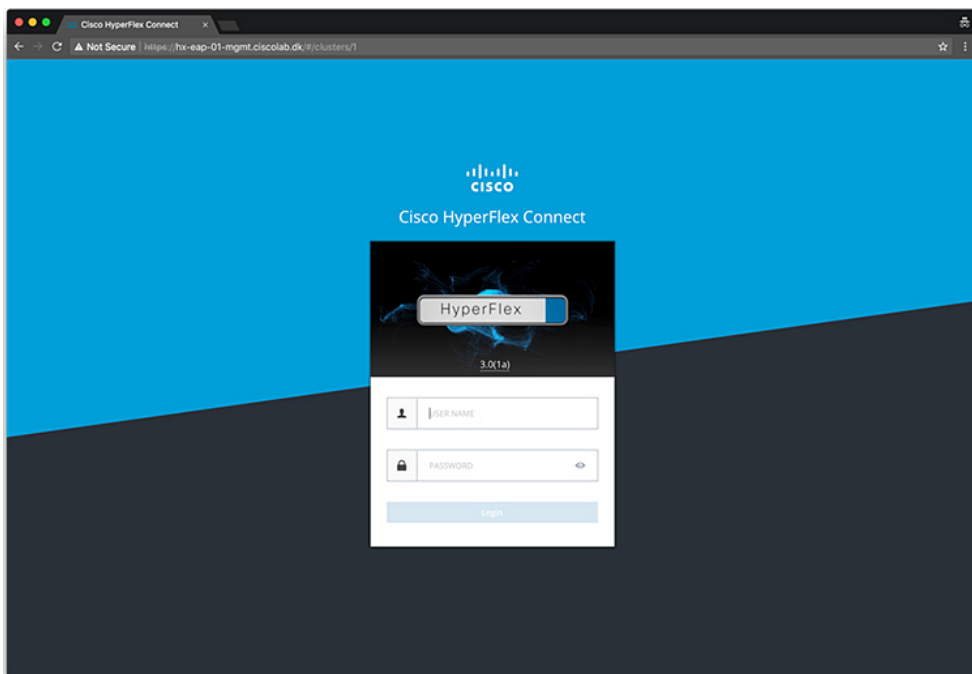
### 次のタスク

HX Data Platform プラグインのインストールを確認します。

# HX Connect へのログイン

Cisco HyperFlex コネクトは、HX ストレージのモニタリング、およびレプリケーション、暗号化、データストア、および仮想マシンのタスクに対し、HTML5 ベースのアクセスを提供します。この手順では、HX Connect の起動およびログインの概要を説明します。HX Connect へのログイン手順の詳細については、『[Cisco HyperFlex データ プラットフォーム管理者ガイド](#)』を参照してください。

**ステップ 1** 任意のブラウザで `https://Cluster_IP/` または `https://FQDN` にアクセスして、HX Connect UI を起動します。



**ステップ 2** 次のクレデンシャルでログインします。

- ユーザ名 : **admin**
- パスワード : クラスタのインストール中に設定されたパスワードを使用します。

## 次のタスク

HyperFlex クラスタが実稼働で使用できるようになる前に、インストール後のスクリプトを実行します。1GE と 10/25GE のどちらのスイッチ設定を実行しているかに応じて、次を参照してください。



## 翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。